

「池田小学校における下門猿の子踊り伝承活動の取組」

1 学校名

指宿市立池田小学校

2 学年・人数

小学1年（4人）、2年（5人）、3年（3人）、4年（3人）、5年（5人）、
6年（2人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

日時

11月10日(19:00～20:00)、11月14日(19:30～20:30)、11月17日(19:00～20:00)
11月25日(19:00～20:30)、11月26日(19:30～20:30)

場所

池田小学校体育館

（2）発表の日時・場所（平成26年度）

平成26年11月28日(14:30～15:00) 池田小学校体育館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

（1）名称：下門猿の子踊り（しものかどさるのこおどり）

（2）由来

延享元年2月21日から延享5年7月12日の間（1744年～1744年）のいずれかの年に始まったと伝えられている。

（3）構成等

「山猿共の里下りの巻」で真っ赤な頭巾、上衣、ズボンの猿に扮した14歳から6歳までの子どもが20人ほどでいろいろ芸をする。猿使いが一人、唄はなく鳴物は太鼓・笛・鉦を用いている。島津忠郷が日向から猿使いを招いて、春秋2回領民の労をねぎらうために踊らせたと伝えられているが、猿は山の神、田の神の使いと考えられていて、やはり農耕祝福行事からはじまったものであろう。

5 保存会や地域との連携の具体

- ・ 指宿市池田小学校区下門地区に「下門猿の子踊り保存会」が組織されている。
- ・ NHKホールで踊って以降、集落内の児童減のために活動を休止していた。
- ・ 平成25年度に公民館長と保存会長が学校での取組依頼をしたが、協議が整わなかった。
- ・ 平成26年度当初から、下門公民館長から伝統芸能継承についての相談を

受け、10月時点で、保存会長に練習回数等の相談を校長がし、校長がPTA役員会で提案する。その提案を受け、「イッシーまつり」(学習発表会)でのお披露目をめざし、5回の練習をする。

- ・ 練習では、保存会の方々の全面的な協力を受けた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- ・ 下門地域の子どもに限定しなかった。
- ・ PTA会員へ投げかけての活動とし、学校は保存会との連絡調整を図った。
- ・ PTA会員が伝統芸能保存に対しての理解が高かった。
- ・ 保存会を中心として、下門集落の方々の全面的な協力が得られた。

7 取組の様子(練習状況、発表の場等)



【練習】



【練習】



【発表】



【発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(児童生徒)

- ・ 自分たちの踊りに校区の方々が大変喜んでくださってよかった。
- ・ 難しいと思っていたけど、練習を重ねていくとできるようになってうれしかった。

(保存会)

- ・ 復活を強く願っていたので、学校側の協力を得て取り組むことができ

てよかった。

- 短い練習時間の中で、子どもたちはしっかりと踊ってくれた。

(教員)

- 猿の子踊りの動きから、子どもたちの体力面の課題（腕力）を見出すことができた。
- 子どもたちが短期間の練習の中でよく踊れたので感心した。